

第6学年国語科学習指導案

指導者 藤井 達也

- 1 日時 令和5年11月17日(金) 2校時(9:50~10:35)
- 2 学年・組 第6学年A組(26名)
- 3 単元名 物語を読んで、人物の生き方について考えよう
「ヒロシマの歌」今西祐行 作 篠崎三朗 絵 戦争と平和のものがたり④ ポプラ社
- 4 単元の目標
 - (1) 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。 [知識及び技能] (1)オ
 - (2) 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] C(1)エ
 - (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]
- 5 単元で取り上げる言語活動
物語を読み、考えたことを伝え合う活動
【「ドキュメンタリー『ヒロシマの歌のなぞを解く』」をさつ影することを通して考えを伝え合おう】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	① 進んで人物像や物語の全体像を叙述を基に想像し、学習課題に沿って、考えたことを友達に伝えようとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、これまでの「読むこと」(文学的な文章)の学習において、主に5年生では「たずねびと」「大造じいさんとガン」、6年生では5月教材「帰り道」を学習した。

「たずねびと」の学習では、楠木綾が訪れた場所で感じた気持ちを「綾スタグラム」に投稿し、「たずねびとマップ」にまとめる言語活動を設定した。グループで話し合いながらマップにまとめることで、物語の全体像を想像できた児童がいる一方で、場面同士を結び付けて想像することが難しい児童が数名いた。また、グループ交流の際には、「自分の考え」「根拠(叙述)」「理由」について話型を基に進んで伝え合うことができた。しかし、話型を用いて発表した後、互いの意見を深める伝え合いには課題が残った。

「大造じいさんとガン」の学習では、全体交流の中で、物語の山場や、登場人物の心情について児童同士で交流できるよう学習を進めた。その結果、教科書内の多くの叙述に触れることができ、複数の叙述を結び付けて、表現の効果を考えたり、物語の全体像を想像したりしようとする児童が増えた。しかし、情景描写などの登場人物の言動以外の叙述から心情を想像することが難しい児童が数名いた。

「帰り道」の学習では、初発の感想で疑問に思ったことから学習のゴールを決め、「人物診断をもとに律と周也へアドバイスを送り、考えたことを伝え合おう」という言語活動を設定した。第三者の視点でアドバイスを送るためには、人物診断をすること(人物像)、あらすじをまとめること(物

語の全体像)が必要だと考え、クラスで学習計画を作成した。単元の中では、Jamboard (Google 社)を活用し、多くの意見を基に、グループで人物像や物語の全体像について想像した。その中で「二人の心の距離が縮まった。」という話の結末は捉えていても、その結末に至るきっかけを読み取ることができない児童が3名いた。

これらの学習から、人物像や物語の全体像について叙述を基に想像する経験やグループで考えをまとめる経験は多く積んできている。しかし、場面ごとに考えたり、物語の結末を捉えたりしたことと、それらをつなげて全体像として想像することが難しい児童がいることが分かった。

語感や言葉の使い方については、自分の考えをまとめる際に、教科書巻末にある「言葉の宝箱」などからよりふさわしい表現を選ぼうとする児童がいる。しかし、4月に実施した学力調査型テストの言語事項に関する問題においては、25点未満の児童が4名おり、学級得点率も39%と他の項目と比べて低かった。語句と語句との関係の理解や、語感や言葉の使い方に関する感覚については、今後さらに身に付けなければならない力である。

日頃の授業においては、素直に友達の意見を受け止める児童が多いと感じる。国語科学習アンケートにおいても、「国語科の学習で、友達の感想や考えを聞いて、自分の考えが変わったり、広がったりすることがありますか。」という質問に対して肯定的評価をしている児童の割合は79%であった。このことから、グループ活動などを通して、相手の意見から学びを深めていると考えている児童が多いことがうかがえる。それゆえ、グループや全体交流で友達の考えから学びを深めることが本学級の児童にとっての手立てになると考える。

(2) 教材観

本単元は、主な指導事項として、「C読むこと」(1)エ「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を設定している。これは、中学校第1学年では、「目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること」に発展していく内容となっている。

本教材は、原爆が投下された広島を舞台に平和についての考えを深めることができる教材である。爆心地が一番近い小学校に通い、日頃から平和学習を多く経験している本校の児童にとっては物語の内容を想像しやすい。長い年月の間に、作中の人物や世の中にどのような変化があったのか、どう生きてきたかを具体的に想像しながら学習を進めていきたい。

物語は、「わたし」を語り手として被ばく直後から戦後十五年目の夏までの様子が、三場面構成で描かれている。本文は、主人公稲毛さんの「その時、わたしは水兵だったのです。」という語りから始まり、語り手である「わたし」は結末の出来事を知ったうえで語っている。「わたし」が語り始めたきっかけとして過去の出来事や他の登場人物の存在が挙げられ、「わたし」が辛い経験を語り始めた理由やきっかけについて考えることで、「わたし」の生き方や人物像、物語の全体像を想像できる教材であると考えられる。

また、「わたし」は自分が目撃したこと、経験したことに自分の感想を加えず、事実が伝わるように語っているため、本文には直接書いてはいない「わたし」の気持ちや、語りの中に登場する人物の言動には読み手にとって多くの謎や不思議が隠れている。それらの謎を解いていくことで、物語の全体像を捉えたり、登場人物の人物像について想像したりできる教材であると考えられる。

(3) 指導観

本単元は、指導事項「C読むこと」(1)エにある「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力」を身に付けることに重点を置いて指導する。そのために、物語を読み、考えたことを伝え合う活動【「ドキュメンタリー『ヒロシマの歌のなぞを解く』」をさつ影することで考えを伝え合おう】を言語活動として設定する。ドキュメンタリー番組の設定を登場人物へのインタビュー形式とすることで、番組内では一問一答形式になり、児童はインタビューの内容とその答えを短くまとめなければならない。そして、インタビューを受ける登場人物は当時の思いを事実に基づいて語るため、児童にとって根拠をもってまとめる必然性が生まれる。根拠を見付けることは叙述に戻ることにつながり、謎を解く過程で、叙述を基に登場人物の人物像や物語の全体像を想像していけるようにする。また、登場人物の立場になって考えることで、この言語活動が努力を要する児童にとっての手立てにもなると考える。

まず0次では、視聴者が平和についての謎解きを番組側に依頼し、謎を解いていくドキュメンタリー番組を視聴する。動画から被爆者の生き方や当時の人々の思いを想像することで、本教材や言語活動とつなげていきたい。

一次では、「ヒロシマの歌」の初発の感想から、物語の謎を集める。その中から「みんなで解く大きな謎」を各場面につき一つ選び、それを解くことを1時間のゴールとして設定する。その他の謎についても、考えて分かるものと調べて分かるものに分類し、小さな謎として番組の中で解くことで、大きな謎を解くための手立てとする。

二次では、まず教師が事前に撮影した「番組構成メモを作成する動画」、「登場人物役の教師にインタビューして一場面の前半の謎を解く動画」の二種類を視聴する。二つの動画から「誰に？何をインタビューすることで謎が解ける？」という視点で話し合う教師の姿や言語活動が具体的にイメージできるようにしたい。一場面の後半は、各班で小さな謎を解く番組作りを行う。作成した番組を全体で視聴し、振り返りとして一場面の「みんなで解く大きな謎」を個人で解くことで、人物像や物語の全体像を想像できるようにしたい。その際、授業全体を通して振り返るよう指導し、一時間の学びを自分で評価する力も養いたい。二場面と三場面については班ごとに番組で取り上げる小さな謎を選ぶ。各班で取り上げる謎を二つまでに制限することで、大きな謎に迫ることができるようにする。動画を視聴した後は「みんなで解く大きな謎」を個人で解くことで物語の全体像を想像し、一場面と同様に学びを自己評価できるようにする。

三次では、単元計画作りのときから内容を隠しておいた「先生が疑問に思っている大きな謎」（稲毛さんはどうして語りだしたのか？）をクラスで解く活動を行う。この謎を解くためには稲毛さんの語りを振り返る必要があり、物語の全体像を捉えることができる間いだと考える。しかし、平和について日頃から考えている本校の児童は、想像だけで語り出した理由をまとめることが予想される。そこで、稲毛さんが語ろうと思ったきっかけも考えることで、本文の叙述を基に想像できるようにする。そして、きっかけを複数書いてもよいことを伝え、より多くの叙述から謎を解き、全体像を想像することにつなげたい。努力を要する児童やグループには、これまで撮影してきた番組や解いてきた謎の答えを基に番組構成メモを作成するよう助言する。各班の番組を視聴した後は、グループでもう一度話し合い、ホワイトボードと短冊にまとめて全体で共有する。その際、短冊を3色用意し、きっかけとなった出来事を場面ごとに分けて書くことで、場面のつながりを意識して物語の全体像を想像する手立てとしたい。

単元の最後にはこれまでの学習を生かして、各班で考えたい登場人物を選び、生き方を想像する。「物語を通して、どんな生き方をしたのか？」という視点で考えることで、登場人物の人物像と物語の全体像を合わせて想像できるようにしたい。また、生き方を考えるには、客観的に登場人物を捉える必要があるため、登場人物目線から離れることで人物像や物語の全体像を想像できると考える。生き方を全体で共有した後、0次からの学習を振り返り、単元全体をまとめる。

本単元では、謎を解いていくことで、グループや全体交流の中での主体的な伝え合いを生み、学びを深めていく児童の姿を目指して授業を進めていきたい。

8 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ○平和についてのドキュメンタリー番組を視聴する。 ○平和に関する本を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴者の謎を番組側が解くという設定を確認する。 ・平和についての番組や本に触れることで、被爆者の生き方や当時の人々の思いを想像し、考えられるようにする。 	

一	1	○「ヒロシマの歌」の範読を聞き、初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が感想を書く前に、稲毛さんが経験した後に語っている話であることを確認する。 ・疑問に思ったこと（謎）や共感したこと等、感想を書く視点を提示する。 	
	2	<p>○クラスで出てきた謎を共有し、学習計画を立てる。</p> <p>○ドキュメンタリー番組を作成することで謎を解いていくという見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで考えたい謎、考えて分かる謎と調べて分かる謎などを分類することでクラスの学習計画を立てられるようにする。 ・みんなで解く大きな謎を各場面一つずつに絞る活動を入れ、たくさん出てきた謎の中から物語の全体像や登場人物の人物像に迫る謎について、学習できるようにする。 	
二	3 5 6	<p>○1時間の流れを確認する。</p> <p>①グループで番組作り（大きな謎に迫るためにその他の謎を解く）</p> <p>②撮影</p> <p>③共有</p> <p>④個人で各場面の大きな謎を解く</p> <p>○一～三場面で解きたい謎についてのドキュメンタリー番組を作成し、全体で共有する。</p> <p>○「みんなで解く大きな謎」について自分の考えを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教師が撮影した2種類の動画で今後の見通しがもてるようにする。 (1) 番組作成の様子 (2) ドキュメンタリー番組 ・番組内で解く謎の数を二つまでと制限することで、大きな謎に迫るための謎の精選が行えるようにする。 ・叙述を基に考える際には、語りの中に現れる表現の効果にも着目できるよう、読む視点を提示する。 ・「みんなで解く大きな謎」を個人で解く際には、授業全体を振り返って書くよう指導する。 	<p>◎語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。[知①]【観察・記述】</p> <p>◎進んで人物像や物語の全体像を叙述を基に想像し、学習課題に沿って、考えたことを友達に伝えようとしている。[主①]【観察・記述】</p>

三	7 本時	○これまでの番組を振り返り、「先生が疑問に思っている大きな謎」について考える。 「なぜ稲毛さんは語り始めたのだろうか？」	<ul style="list-style-type: none"> 語り始めた理由とともに、きっかけとなった出来事についても考えることで、叙述に基づいて考えることができるようにする。 努力を要する児童には、これまでの謎の答えや番組動画をタブレット端末で見ることで、過去の出来事やヒロ子、お母さんの言動を振り返り、物語の全体像を捉えることができるようにする。 授業の最後にもう一度個人で謎の答えを考える際には、授業全体を振り返って書くよう指導する。 	◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 〔思①〕【観察・記述】
	8	○学習したことを基に、各グループで生き方を考えたい登場人物を決めてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 「物語を通して、どんな生き方をしたのか？」という視点で考えることで、登場人物の人物像と物語の全体像を合わせて想像できるようにする。 授業の最後に登場人物の生き方を個人でまとめる際には、単元の学習を振り返って書くよう指導する。 	

9 単元のゴールの姿

- ・稲毛さんは15年間ヒロ子や橋本さんの気持ちに寄りそいながら生きてと思います。なぜかという、ヒロ子にいつ本当のことを打ち明けたらいいかを悩み、ヒロ子が事実を受け止めて前向きな気持ちになるまで支え続けたからです。平和登校日でお話をしてくださった被ばく者の飯田さんが「亡くなることもつらいが生きていくこともつらい。」と言われていたので、稲毛さんは心が強い人だと思いました。
- ・平和学習で語り部さんがお話ししてくださった「大切な人を失いながら生きるつらさ」と同じ気持ちをかかえながら、橋本さんは生きていたと思います。そして、亡くなったわが子への気持ちをヒロ子に向けようと思っていたけれど、稲毛さんと再会できたことで、ヒロ子が幸せになれるのか、本当のことを伝えたい方がいいのかと迷いが生まれました。自分のことではなくヒロ子の気持ちを大切にできる橋本さんは思いやりのある人だと思いました。
- ・ヒロ子は本当の自分を知りたいと強く願って生きていたと思います。なぜなら、ヒロ子は親せきの言葉や稲毛さんの存在から自分の過去について気になっていて、その不安を稲毛さんが暗いかげとして感じ取っていたからです。当時は、そ開したり、家族の無事が分からないままはなれて暮らしたりすることもあり、聞きたくても言い出せなかったと思います。

10 本時の学習（第二次7時）

(1) 目標

稲毛さんが語り始めた理由ときっかけを、叙述を基に物語の全体像と結び付けて想像することができる。〔思①〕

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>1 教師の謎から、課題を確認する。 「なぜ稲毛さんは語り始めたのだろうか？」</p> <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>・これまで場面ごとに謎を解いてきたことを振り返り、物語の全体像から謎を解くことを確認する。</p>	
<p>めあて 物語の全体像をとらえて、稲毛さんが語り始めた理由ときっかけを考えよう。</p>		
<p>3 班で番組構成メモを作成し、番組を撮影する。</p> <p>4 番組を全体で視聴する。</p> <p>5 番組内容を基に、グループで理由ときっかけをホワイトボードと短冊に改めてまとめ、全体で共有する。</p> <p>6 謎について自分の考えをまとめ、振り返りをする。</p> <div data-bbox="177 1771 611 2049" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>稲毛さんは後世に伝えるために語り始めたと思います。なぜかという、自分の辛い過去を受け止め、刺繍に思いを込めたワイシャツをヒロ子からもらったことで、自分も前に進もうと考えたからです。</p> </div>	<p>・稲毛さんの事実に沿って考えるよう指導する。</p> <p>・語り始めた理由とともに、きっかけとなった出来事について考えることで、叙述に基づいて構成メモを作成できるようにする。</p> <p>※努力を要する児童には、これまでの謎の答えや番組動画をタブレット端末で見ることで、過去の出来事やヒロ子、お母さんの言動を振り返り、物語の全体像を捉えられるようにする。</p> <p>・視聴する際には、きっかけとなった出来事に注目するよう指導する。</p> <p>・3色の短冊を用意し、きっかけとなった出来事を場面ごとに分けて書くことで、場面のつながりを意識して物語の全体像が想像できるようにする。</p> <p>・授業の最後にもう一度個人で謎の答えを考える際には、授業全体を振り返って書くよう指導する。</p>	<p>◎「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 思①〕【観察・記述】</p>

1 1 板書計画

ヒロシマの歌

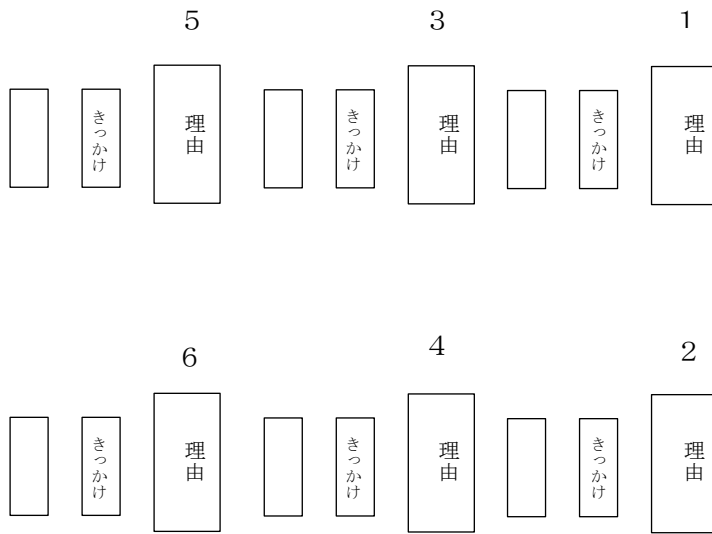
今西 祐行

【謎】「どうして稲毛さんは語り始めたのだろうか。」
めあて 物語の全体像をとらえて、

稲毛さんが語り始めた理由ときっかけを考えよう。

稲毛さんの事実に沿って考える。

- ・ 体験・記憶
- ・ 出会った人



ふり返り

稲毛さんは後世に伝えるために語り始めたと思います。
なぜかという、自分の辛い過去を受け止め、ししゅうに思い
を込めたワイシャツをヒロ子からもらったことで、自分も前に
進もうと考えたからです。

第6学年 国語科と平和教育のつながり

国語科
(文学的な文章)

視点の違いに着目して読み、感想をまとめよう
「帰り道」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・初発の感想で疑問に思ったことから学習計画を作成し、律と周也の視点の違いに着目して学習を進める。様々な立場から物語を読み、自分の考えをもち、まとめる。
- ・登場人物の二人の関係がどのように変化したかを捉え、考えを伝え合うことによって、互いの意見のよさを認め合い、自分の考えを広げる。

作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう
「やまなし」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・グループでの課題解決を中心とした学習計画を自分で考えることによって、主体的に学習に取り組むとともに、見通しをもち学習を進める。
- ・学習リーダーを中心に課題解決を行うことで、作者が作品に込めた思いや考えなどについてグループで話し合いながら、様々な考えがあることを知り、自分の考えをまとめる。

物語を読んで、登場人物の生き方について考えよう
「ヒロシマの歌」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・初発の感想から出てきた物語の謎の中から、「みんなで解く大きな謎」として各場面に一つ選び、その謎を解くことを1時間のゴールとし、自分の考えをまとめ、自分の言葉で思いを伝える。
- ・班でドキュメンタリー番組の構成メモを作成しながら、謎を解いていくことで、互いの意見や感想のよさを認め合い、考えを広げる。

本川小学校から平和を発信しよう

他教科等

「ピースサミットに参加しよう」(総合的な学習の時間)

- ・8月6日の平和記念式典での「子供代表による平和への誓い」に向け、自分の言葉で、平和の大切さを世界に発信するための作文を書き、思いや考えを表現する。

「たてわりグループについて」(総合的な学習の時間)

- ・慰霊祭で献納する千羽鶴を1～6年のたてわり班で、折り方を教え合ったり、平和に関する絵本の読み聞かせをしたりすることを通して、下学年にバトンをつなぐという自分たちの役割に気付く。

「説明活動に挑戦しよう」(総合的な学習の時間)

- ・1年生にも分かるように被爆遺跡について説明することを通して、自分の言葉で思いを伝えることの大切さを感じ、平和発信リーダーとして本川小学校に残る歴史や資料を伝えていく。

「墨で表す」(図画工作科)

- ・灯ろうに墨の濃淡を使って絵をかいたり、平和の願いをこめてメッセージを書いたりすることによって、平和の大切さを自分のこととして考え、その思いを伝える。

「これからの広島(平和ノート)」(社会科・国語科)

- ・くらしの中の平和について考え、より平和なまちづくりを目指すためにできることを発信する。

「平和の大切さについて考えよう」(総合的な学習の時間)

- ・居森清子さんの劇を演じることを通して、風化しようとしている被爆の実相を知り、平和を願う心情を培い、発信していく。
- ・爆心地が一番近い小学校の児童として、平和について学習したことを伝えていく役割があることに気付く。

「新しい日本、平和な日本へ」(社会科)

- ・戦後の日本はどのような改革が行われたのか知り、世界とのつながりや、人々の生活の変化について気付き、これからの日本はどのような国を目指していったらよいか自分との関わりの中で考える。

「6年間の平和学習を振り返ろう」(総合的な学習の時間)

- ・本川小学校の卒業生になる自分たちの立場を踏まえて、これまで学んだことや卒業した後の自分たちの役割について考える。